

## 第31回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

1 日 時 平成27年7月10日（金） 午後1時～午後4時

2 場 所 鳥取県産業技術センター機械素材研究所（3階）

3 出席者 出席者名簿のとおり

### 4 会議の概要

#### （1）前回の宿題事項について

○センター配布資料（資料1）について、産業技術センター説明。

#### ○主な質問及び意見

- ・前回の委員会での指摘を受けて、詳細なデータを示してもらったが、細かく分析してほしいのではなく、もっと戦略的に見せてほしかった。定義も曖昧なままで理解が深まらない。
- ・今回初めてデータを分析してみて、センターとして反省や今後の課題などはなかったのか。次はこうしたいというのがセンター側から出てくることを期待していた。

→（センター回答）

中期計画は3月末までに提出し、すでに県から認可済みである。分析した結果にすべて満足しているわけではないが、我々がやってきたことが間違いではなかったと裏付けされた部分もある。

- ・中期計画が認可済みでも、今回の分析結果を踏まえて、今後センターとしてどう進むべきか、あらためて考えていただくことは意味があるのではないかと。
- ・現在の中期計画、年度計画には事実の記載しかなく、その目標設定に至った経緯、裏付けが記載されていない。
- ・センターに中期計画の変更を求めるか、それとも計画変更は求めず、内容の裏付けについて説明を求めることにするか。評価委員会で意見集約したい。

#### 〔意見集約の結果〕

- ・中期計画と27年度計画をあらためて精査し、計画変更の必要性を認める場合はあらためて届け出ること。
- ・計画設定に至った根拠について、納得できる説明すること。

→（センター回答）

今回のご意見を踏まえ、計画の見直し等については検討させていただく。

実績報告にあたっての記載についてもさらに検討を加え、よりよい報告書作成を考えたい。

- ・中期計画と27年度計画の評価に関しては、第3期の評価基準を今後見直す予定である。

#### （2）センターヒアリング

○平成26年度業務実績報告書、第2期中期目標期間事業報告書（センター配布資料）について、産業技術センター説明。

#### ○主な質問及び意見

- ・自己評価は、1年間にできたことやできなかったこと、次年度への課題や対応方針を明らかにしてはじめて評価となる。センターの自己評価には、できたことだけが書かれており、

しかもほとんどに5がついている。これでは伸び代もない。現場で頑張っていることは認めるが、その中においても来期に向けた課題は必ずあるべきだと思う。

- ・たとえば実用化研究評価では、ほとんどが3点台なのに対して、研究開発に関するセンターの自己評価がなぜ5点になるのか不明。(研究に限らず)計画を上回る業務が進捗し、アウトプットや業績が伴ってこそ評価「5」になる。
- ・第2期の評価は、各年度の評価点の平均点が機械的に2期4年間の評価点になるしくみとなっているが、この点は、第3期に向けて今後委員の中で議論してみたい。
- ・評価というのは、どんな活動や努力があったかも重要だが、事業にどれだけ貢献したかがすべてであり、そこはドライに考えなければならない。その点、センターの自己評価には、「取り組んだ」「設定した」など行動したことだけが記載され、どんな効果や実績を出したのかが読み取れない。県の産業振興にどれだけ貢献したかという視点で評価されないといけない。

→ (センター) 参考になるご意見をいただいた。ご指摘いただいた面は検討させていただきたい。また、実績報告の記載については、さらに検討を加え、よりよい報告書作成を考えていきたい。

### (3) 今後の評価作業について

#### ○評価作業スケジュールについて、事務局より説明。

- ・各委員による評価案の事務局提出について、7月24日期限で依頼。
- ・評価の全体案については、8月10日に再度集まり協議することとした。